

市内病院地域連携担当者連絡会議 3か月後アンケート結果

概要

実施日時	令和3年9月14日（火） 14:00～16:00	
開催方法	Zoomによるオンライン会議	
出席者 (計58名)	病院	地域連携担当者等 11 病院 19名
	在宅	診療所相談員等 5名 訪問看護師 7名 介護支援専門員 7名 地域包括支援センター 13名
	柏市	地域医療推進課 6名 地域包括支援課 1名
次第	報告	コロナ禍における病院と在宅の連携に関する事前アンケートの結果
	意見交換	グループワーク1 「コロナ禍における入退院時連携での現状と困り事の共有」
		グループワーク2 「解決策の提案」
		今後に活かせること, 会議で得た気づきの共有
その他	情報共有システムのご紹介	

課題・気づきと工夫

課題・気づき

在宅	<ul style="list-style-type: none">在宅側として、どういうことを確認したいのかをはっきりと端的に病院に伝えていく。できることを最大限実施し、在宅に移行してから積み残しを解決していくくらいの心持ちでやっていきたい。在宅医療・介護側も医療機関側に引き続き歩み寄る姿勢が求められる。
病院	<ul style="list-style-type: none">面会制限中でも家族や在宅チームへ、いかに正確に患者の状態を伝えるかが課題。病状悪化等の緊急連絡以外について、思いや考え方のやりとりをタイムリーに出来ていなかった。

連携で以前より 意識・工夫したこと

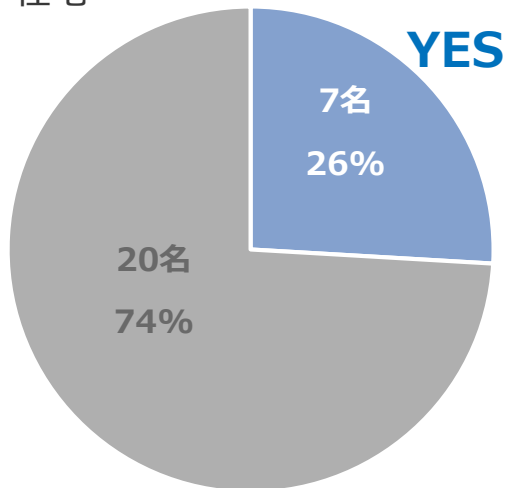
在宅	<ul style="list-style-type: none">病院、クリニック、ケアマネへ情報を細かめに入れるように心掛けた。早めの情報提供を行うように心掛けた。Zoomを使った会議の提案をした。
病院	<ul style="list-style-type: none">なるべく早い段階での情報収集・情報提供・多職種へのコンタクトをとることを心掛けている。退院前カンファレンスの開催件数が増えた。Zoomなどのツールを使い、出来るだけ患者の状態を確認していただいた。

カシワニネット活用状況

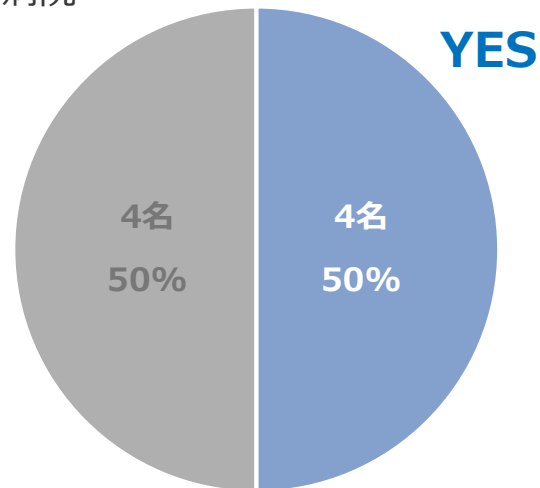
- 会議をきっかけにカシワニネットの新規事業所登録があり，部屋参加に至った病院があった。

Q 会議後にカシワニネットの活用状況に変化はありましたか？

在宅



病院



Yesの回答

- ✓ 部屋を開設した 2名
- ✓ 病院から問い合わせがあった 1名
- ✓ その他 4名

Noの意見

- 機会がなかった (以前から使っている, 使いたいと思っている) 16名
- 環境が整わない 1名
- 操作が不得手 1名
- 必要性を感じない 1名

- ✓ 部屋を開設した 2名
- ✓ 登録した 2名
- ✓ 院内で調整中 4名

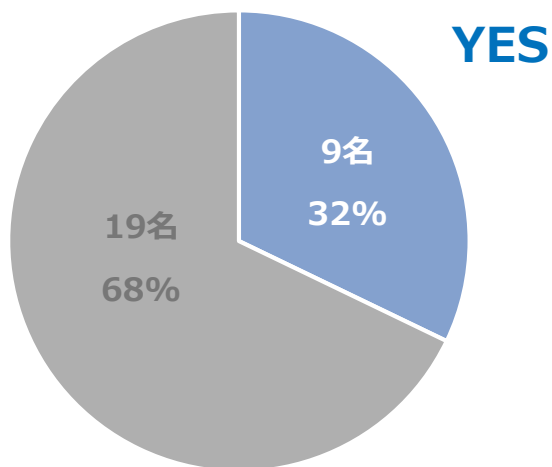
- 機会がなかった 2名
- 環境が整わない 2名
- セキュリティが心配 1名
- 必要性を感じない 1名

Web会議活用状況

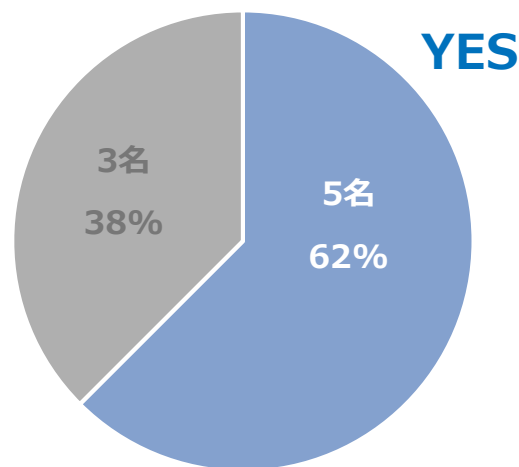
- 会議開催前はWeb会議の活用がなかったものの、会議後に活用した病院が1病院あった。

Q 会議後にWeb会議の活用はありましたか？

在宅



病院



Yesの回答

- ✓ 退院時カンファレンス 6名
- ✓ 担当者会議 3名
- ✓ 病状や経過等の説明 2名

Noの意見

- 対面で行えている 10名
- 環境が整わない 3名
- 必要性を感じない 1名
- セキュリティが心配 0名

- ✓ 退院時カンファレンス 4名
- ✓ 病状や経過等の説明 3名
- ✓ その他 2名

- 対面で行えている 2名
- 環境が整わない 2名
- 電話・ファックスで十分 1名
- セキュリティが心配 0名

会議に関するご要望

- 開催については、定期的な開催を望む意見が複数あった。
- 直接顔を合わせた形での開催を望む意見もあった。
- テーマや会議の方向性については、検討が必要。

会議の開催について

在宅	<ul style="list-style-type: none">• 参集して同じ会場で話し合うことができるようになったら、そのほうがよいと思う。• 今回とても勉強になった。とてもいい会議だったので定期的を開催して欲しい。
病院	<ul style="list-style-type: none">• 早くコロナが収束して、以前みたいな会議・説明会等出来ればよい。• Zoom等での開催の方が参加しやすい。

会議のテーマについて

在宅	<ul style="list-style-type: none">• 小さなクリニックや医院と連携するための会議など、細分化したらどうか。• 同じ議題であっても情報共有のあり方について話せたら良い。• 医療機関はFAXでの情報のやり取りが定着しており、そこにカシワニネットを新たなツールとして入れ込むことは非常に難しい。カシワニネットの利用を医療機関にお願いしていく形の会議のあり方にはそろそろ限界があるのではないか。
----	--

会議に関するご要望

その他

在宅	<ul style="list-style-type: none">• 今回、病院側も連携したい（話したい）という気持ちが伝った。病院側（MSW）のご意見を、多くのケアマネジャーに周知していただけると良いのではと思いました• 各包括支援センターは、毎年必ず市の方で周囲の機関、民生委員、利用者等からアンケートをとって評価・評判を周知されている。 病院側も自身の業務について周囲からの客観的な評価をしてもらおうと良いと思う。
病院	<ul style="list-style-type: none">• 名刺交換（例えばオンラインでもアプリを使えばQRコードの読み込み等で名刺交換可能）をするタイミングを設けていただきたい。

具体的な行動変容が見られた

- 複数の病院でカシワニネットやWeb会議の活用をはじめ、在宅との連携に関して行動変容が見られた。
- 在宅側も病院との連携で早めの情報共有を意識するなどの姿勢が見られた。



引き続き「場」を提供する

- 3か月後アンケートでは特に在宅側で定期的な開催を望む意見が多くあった。
- どのような状況下にあっても質の高い多職種連携が実現できるよう、地域の課題を整理・共有する機会を提供し、日常生活圏域単位の取組みに繋げていく。